

# アカウミガメ

*Caretta caretta* (Linnaeus)  
カメ目・ウミガメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

## 選定理由

2008年あわら市浜坂での産卵記録と、多数の仔ガメの漂着記録が多くあるが、産卵環境の縮小と悪化が進んでいる。定置網による混獲も多い。

## 種の特徴

最大直甲長 130 cm、体重 400 kg 位になる。ほかのウミガメ類と比べて頭部が大きく顎が発達しており、体色は褐色、赤褐色で、腹甲は淡い黄色。30 cm 以下の幼体、亜成体には甲に3本の隆条がみられる。海底の甲殻類や軟体動物等を捕食する。

## 分 布

温帯～亜熱帯の海域に生息し、4～8月にかけて太平洋沿岸や南西諸島等で産卵がみられる。20 cm 以下の幼体が冬季の海岸に数個体漂着するのが確認されている。

## 生息を脅かす要因

海岸地形の変化、砂浜の砂の減少は、ウミガメにとって大きな脅威となる。原因として、護岸工事やダム建設による河川からの砂の供給量の減少が挙げられる。そのほかにも、定置網や延縄等の漁具に絡まることで起こるウミガメの溺死も多数報告されている。

参考文献 百崎ら (2011)、日高監修 (1996)、福井県自然環境保全調査研究会監修 (1999)、福井県編 (2002)、亀崎 (2013)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	●	●						○				●

# ニホンイシガメ

*Mauremys japonica* (Temminck et Schlegel)  
カメ目・イシガメ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

県内全域に生息するが、生息域が減少し、個体群が縮小している。外来種により生息場所や産卵環境から駆逐されている。

## 種の特徴

背甲長は最大 22 cm 程で、体重は 750g 前後。頭部はやや小型で指趾の間には水かきが発達している。幼体の甲の後縁は鋸歯状だが、成長とともに目立たなくなる。雑食性で、魚類、昆虫類、ザリガニ等を捕食し、水草等も食べる。

## 分 布

日本の固有種で、河川の上流から中流域、田んぼや池沼、湖等に生息し、やや流れのある環境を好む。県内でもこれらの水辺に近い環境に分布している傾向にある。

## 生息を脅かす要因

開発に伴う生息地や産卵環境の破壊、三面コンクリートの側溝はカメの移動を困難なものにしている。農業等による水質悪化や、ペット用の乱獲等による個体数の減少も挙げられる。外来種による生息場所や産卵環境からの駆逐も問題となっている。

参考文献 矢部 (1995)、高田・大谷 (2011)、日高監修 (1996)、福井県自然環境保全調査研究会監修 (1999)、内山ら (2002)、鈴木 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

# ニホンスッポン

*Pelodiscus sinensis* (Wiegmann)  
カメ目・スッポン科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】情報不足

## 選定理由

生息数が減少し、個体群が縮小している。生息条件が悪化している。

## 種の特徴

背甲長は最大 35 cm 程で、体重は 1,000g 前後。甲は扁平で鱗板をもたず、やわらかな皮フにおおわれている。鼻孔の先端が突出し、肉質の口唇をもっている。動物食の強い雑食性で、両生類、魚類、甲殻類、貝類のほか、水草も食べる。

## 分 布

本州以南に生息するが、一部は養殖場から逃げ出した個体もいるため、正確な自然分布については不明な点が多い。流れの緩やかな河川、池沼や湖等に生息している。

## 生息を脅かす要因

河川改修や護岸工事、開発に伴う生息地や産卵環境の破壊、農業等による水質悪化が主な要因である。

参考文献 環境省編 (2014)、大谷・川添 (2010)、日高監修 (1996)、福井県編 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

爬虫類